

< 5（2）運動部、文化部に分かれての協議（文化部） >

（司会）

・文化部活動の地域展開に係る進捗状況について、【別紙1（案）吹奏楽部・合唱部の文化部活動地域展開について 拠点校方式を採用した地域クラブの設立について】を基に説明。

・地域展開の案として、本日配付の資料を基に各校保護者会に出向いて説明している。質問はいくつかあったが、反対意見はなかった。

・担当とともに、各校の練習状況、施設の管理状況（冷暖房の設置等も含め）の確認を行った。ほとんどの学校の冷暖房は職員室で一括管理、音楽室の他に近くの教室も使用して練習している状況。

・課題は、休日の地域クラブ練習時に、学校を管理する人員の必要性について。関係部署と相談し、学校へ相談に行く予定である。指導者について、始めに吹奏楽部の顧問と相談していきたい。

・令和8年度の吹奏楽部員数は、市内で96名。合唱部員数は、令和7年度の15人から今年度は17人に増えた。

・現在の活動環境を維持しながら、地域展開により変わることがないように、無理せず進めていきたい。

・部員の少ないA中、B中は、サマーミュージックフェスティバルのような合同演奏があるときは、一緒に練習できるのではないかと考えている。また、A地域での学校行事はA中だけで練習できるようにもしたい。

・吹奏楽部、合唱部以外の文化部についても今年度から本格的に動き出したいと考えている。今年度から新しく配置されたコーディネーターが担当。【別紙2 吹奏楽部・合唱部以外の文化部活動地域展開について】を基に説明。

・吹奏楽部、合唱部以外の文化部は、土日の活動がそもそもないので、平日の地域展開を考えていくことになる。休日の地域展開以上に考えることが出てくると予想される。

・委員の皆様には、日頃思っていることをお話しいたきたい。

(委員)

・吹奏楽部、合唱部以外の文化部の地域展開は大変そうだ。一般の方が平日に指導者として入ってくることになるのか。1週間に何日の活動になるか。

(事務局)

・週2～3日程度を考えている。

(委員)

・教職員を退職した人など、時間に余裕がある方しか行けない。家庭部の指導者などはいるか。

(事務局)

・調理とハンドメイドとに分ければ指導可能な人材はいる。ただし曜日や時間帯、時期による制限もある。

(委員)

・自分の仕事を持っている方は難しいかもしれない。

(事務局)

・活動している生徒の実態を見ると、部活動が自分の居場所となっている生徒もいる。そのような生徒の居場所も確保したい。

(事務局)

・絵画の技術を高めたい人と居場所を求めている人などで、二極化している。

(委員)

・そのような実態を踏まえて指導してくれる方がいればよい。

(事務局)

・校長や顧問のヒアリングから、指導者への不安もある。専門的になりすぎると退部してしまう生徒、学校以外の活動になれば活動できないという生徒もいるようだ。

(委員)

・人数がそれほど多くないわけだから、生徒一人一人の実態を伝えることによって、個々の不安が取り除かれ、それを踏まえて指導者に上手に対応してもらえればいいと思う。

(事務局)

・謝金が発生することもあり、指導もしないでただ活動場所にいるだけだと指導者が悩むのではないかと懸念もある。

(事務局)

・吹奏楽部はどうか。

(委員)

・部員数の少ない学校の部員本人たちは、どんな感想をもっているか。

(司会)

・今年度の4月当初に聞いたところによると、入部したばかりなので、まだわからないとのこと。違和感なく交流できるようにしたい。

(事務局)

・合同練習する場合、生徒の移動はどのように動くことを想定しているか。

(司会)

・運動部と同様に保護者送迎（楽器持参）を想定している。なお、アンサンブルコンテストの時期は、A中・B中それぞれの場所で活動できるようにすることも検討したい。

(事務局)

・アンサンブルコンテストは合同での参加は可能か。

(委員)

・可能である。アンサンブルコンテストは単独校として出ることもできるように考えた
い。

(委員)

- ・一緒に大会に出られるといい。

(委員)

- ・平日に一緒に練習できそうか。

(委員)

- ・今は休日の活動について検討している。

(事務局)

- ・過去にある中学校とある中学校2校の合同チームでコンクールに出場したことがあった。

(委員)

- ・今年は合同チームとしての演奏はなかった。今後の地域展開のこともあるので、市町村をまたがないで形で考えている。

(委員)

- ・運動部と違って楽器が大きくなると移動が難しい。今はやれるが、先を見通すと課題もあるのではないか。

(委員)

- ・ある中学校の部員数は4人（3年1人・1年3人）。今後のこと、すなわち1年生の子どもたちのことを考えていかないといけない。

(委員)

- ・合同で演奏するのが楽しいと思ってもらえればと思う。

(委員)

- ・移動は先生方ではできないのか。

(委員)

・教師は生徒を車に乗せられないので、保護者が交代で送迎するなど、協力してもらえればいいと考える。

(委員)

・教師の兼職兼業については、この後の状況をみて考えたい。休日は、土日どちらか1日の活動しかできないということか。

(事務局)

・生徒の体調管理を考え、運営主体が確認している。月4回とも土日の両日に活動していないか等、活動の状況を把握していくことが必要。

(委員)

・休日の演奏会など行事の前日は準備等が必要になる。

(事務局)

・現在の部活動のガイドラインに沿って活動していただきたい。

(委員)

・吹奏楽と合唱で部活動指導員5人を配置してもらっているの、スムーズに移行できるのではないかと考えている。

(委員)

・合唱部のある小学校は少ない。連携する中学校に合唱部があればいいが、そうでない場合は中学校で続けることができない。小学校で合唱部に入っていた子どもたちが、連携する中学校ではなくても、なんとか中学校で合唱を続けることができればいいが。

(委員)

・ある中学校の例だが、バスケのクラブチームと吹奏楽部に入っている生徒が1人いる。そういう人もこの後でてくると思われる。

(事務局)

- ・習い事のような感覚で活動していると感じる。

(委員)

- ・土日だけ活動したい人も出てくるのではないかな。

(委員)

- ・週末だけ活動したい人も出てくると思う。

(事務局)

- ・ある中学校には男子バレー部がないので、平日は女子チームのマネージャー、休日は地域クラブのバレーに参加している生徒もいる。大会参加はできないがそういう選択もある。

(委員)

- ・もっと発想を柔軟にしていく必要があると思う。子どもたちはいろんな選択肢があっていいと思う。

(司会)

- ・様々なご意見をいただきありがとうございます。今後もいろいろな課題をクリアしていきたい。本日の文化部会は以上で終わります。